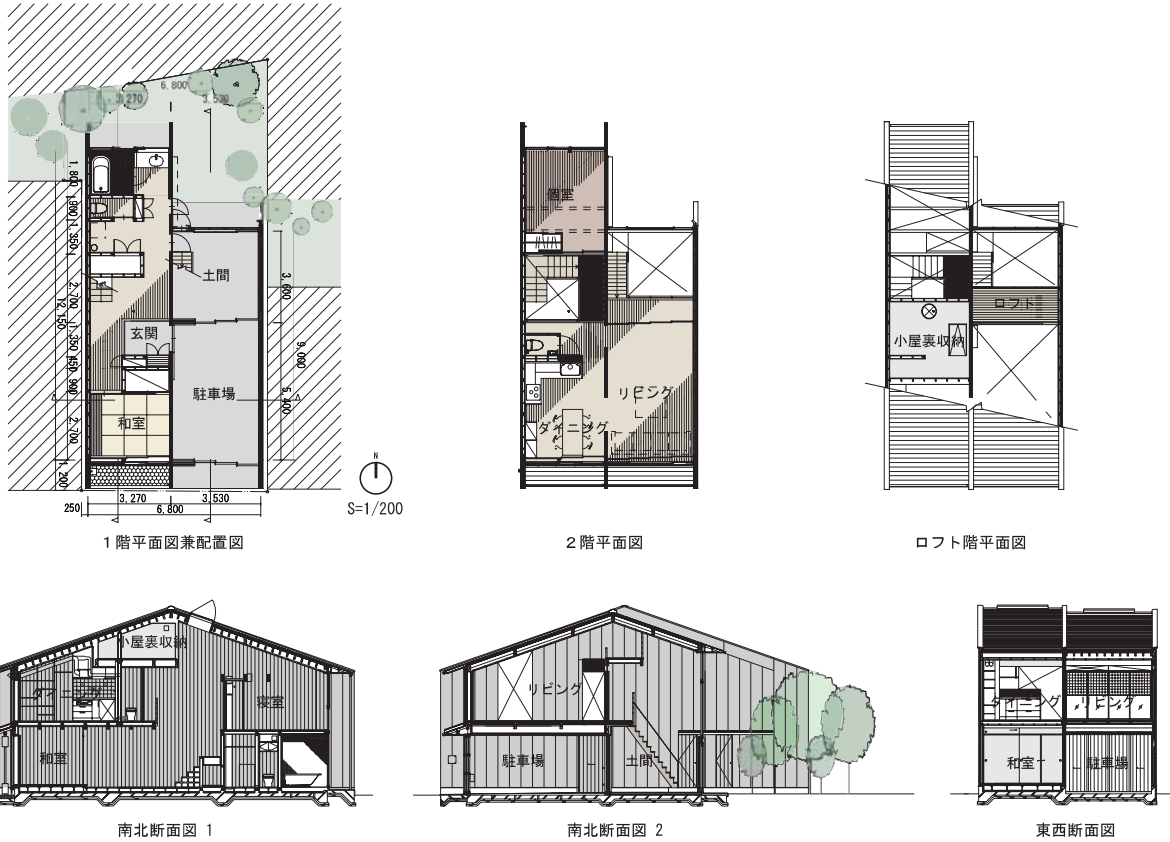


京都まちなかこだわり住宅

■京都まちなかこだわり住宅とは

「京都まちなかこだわり住宅」とは、京都における建売住宅のモデルとして、都市居住推進研究会と(財)京都市景観・まちづくりセンターの共催により公開コンペを行い、そこで選出された現代京都市型住居研究会の案を建都住宅販売株式会社の施工によって実現した、建売モデル住宅です。本コンペでは、京都の「まちなか」において都市を構成する要素としての住宅の「あり方」と、京都の「こだわり」として設計システム、建設プロセスといった住宅の「つくられ方」に重点をおいており、また地元住民とのまちづくりに関するワークショップ、地域産材・伝統工芸に関する学習会の開催等を通じて広範な情報発信、交換を行なっています。ここでは、本プロジェクトにおける特徴として、特に木材に関する面を取り上げて説明しています。

■図面



■趣旨説明

本モデル住宅のつくられ方を図1に示す。図中①の3枚の壁のうち、両端2枚の一部と中央の壁の全てには集成材壁柱(120×450断面)が用いられている。この壁柱は、構造、内装、外装、断熱、調湿、防火(準耐火構造認定取得済)といった木が本来持つ性能を十分に活かすよう工夫されている。

- これらによって、以下ことが実現されている。
 - ・準防火地域において、外壁を集成材(木材)のアラワシ仕上げとすることができる
 - ・外壁に集成材を使用する際、外部からの施工が一切不要であり、京都に多いうなぎの寝床状の敷地形状に適している
 - ・壁と壁の間の任意の箇所に床を架けたり撤去したりすることによって、プランニングや竣工後の増改築に自由度が与えられる
 - ・建物の東側半分を取り壊して、それまで内装だった壁面をそのまま外装として利用することができる(断熱、調湿、防火、外装等の処置が不要)。尚、今回は設備設計、構造設計においても西側半分だけで成立するよう工夫されている。このことによって、家族構成の変化などに合わせて減築して土地を分筆、売却することが可能であり、さらに売却された土地には西側半分と同じ家を建てることも可能である。(図2)
- 以上に加え、一般的な仕上材、断熱材などの新材の代わりに集成材を使用しているため、住宅における木材の使用量が一般的なものに比べて非常に多くなっており、さらに集成材のリユースが容易な工法であるため、木材の潜在的な需要を増やした上でリユースを活用することにより山林の状況に合わせてそれを調整することが可能となっており、近年全国的に危ぶまれている荒廃した山林状況の健全化にもつなげたいと考えている。



図 1

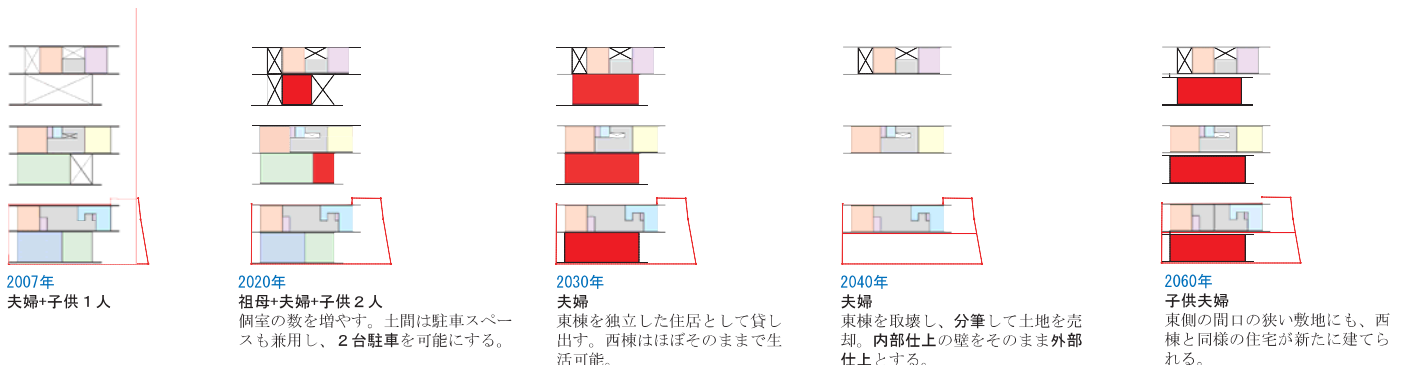


図 2

■写真



建物正面：両端2枚の集成材壁で延焼ラインをかわしている



1階土間より庭を臨む



庭より建物を見返す：中央の壁は同じ仕上げのまま内部から外部へと連続する



玄関廻り吹抜：正面に7mの北山杉天然絞り登り棒が見える



2階リング：中央の壁によって空間が仕切られ、自由な位置に梁、床が架かる



1階土間よりエントランスを見返す